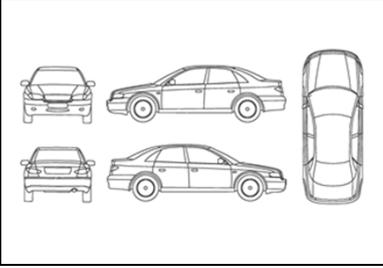


職員提案個別票

受付番号	1
提案件名	庁用自動車の使用について確認書式の変更

(職員提案：提案者)

1	現状及び課題	庁用自動車の事故が多いため、それを未然に防ぐべく庁用自動車を使用するという意識付けをする。
2	提案内容	<p>庁用自動車を使用する際に、メーターや車体キズの確認等を行うが、その際の記入書式を変更することを提案したい。</p> <p>【変更内容】 ① 天気を記入する ② 車体のイラスト入りにする</p> 
3	予想される効果	<p>① 日時に加え、天気も記入し、より細かな記録として残すことで、万が一の事故発生時に周辺環境も含めたより正確なフィードバックを可能とし、類似ケースの再発防止効果を見込むことができる。</p> <p>② 出発前後に明確に庁用自動車の車体状況を確認できる。現在は、出発前後にキズの有無を確認した際に、下部の記入欄にキズの状況や場所を記入しているが、実際に記入した者でないと分からない表記になってしまうこともあり得る。</p> <p>そこで、車体のイラストに直接「この部分に擦り傷、へこみ」等と書き込む書式に変更することで、より明確な庁用自動車の確認を求め、キズの見落としや申告もれを防ぎ、慎重な運転を心がけるようになることが見込まれる。</p> <p>③ さらに、この①②の作業を通して、「これから庁用自動車を運転するんだ」「天気がこうだから気をつけよう」などという意識付けが出来、結果として事前の事故防止効果につながると考える。</p>

審査会の実施等に関する所見	実施することが適当であると認められる
---------------	--------------------

ほう賞対象	実施指示
○	○

職員提案個別票

受付番号	3
提案件名	過去に提案された職員提案内容の掲示

(職員提案：提案者)

1	現状及び課題	毎年、職員提案強化月間において、職員提案の募集を周知していますが、これまで提案された内容の添付がなく、先人たちの提案を確認することができません。 過去に不採択となった提案を確認することで、さらに良い提案が生まれる可能性があると考えられます。
2	提案内容	過去の職員提案内容を募集時の添付資料とするなど、PC上で見られるようにする。 (採択・不採択に関わらず)
3	予想される効果	過去の提案を見ることができるようになり、さらに改善された提案が提出される可能性が高まる。 また、職員提案にチャレンジしようとする職員の意識が高まる。

審査会の実施等に関する所見	実施することが適当であると認められる
---------------	--------------------

ほう賞対象	実施指示
○	○

職員提案個別票

受付番号	4
提案件名	共用車運転日報の裏面活用による事故防止意識啓発について

(職員提案：提案者)

1	現状及び課題	<p>これまで、定期的な「安全運転のポイント」の配信や毎日の安全衛生標語のPC画面上への表示など、様々な手段により庁内への意識啓発が図られています。</p> <p>しかしながら、事故の件数は、大きく減少することもなく、毎年のように事故が発生しています。抜本的な解決では、職員の運転技術の向上が必要であると考えられますが、個々の事情も違っている為、現実的には困難であると思われます。</p> <p>そのため、継続的な意識啓発を図り、事故の未然防止に努めることが、必要であると考えられます。</p>
2	提案内容	<p>共用車を運転するときに記入する「共用車運転日報」の裏面に事故防止のポイントを記載します。</p> <p>また、鍵の返却ボックスなど、共用車を運転する人が立ち止まる場所などにも同様の内容を掲示します。</p>
3	予想される効果	<p>上記の取組により、運転をする直前にも職員の意識啓発が図ることができ、これまでよりも安全に運転するよう心掛ける職員が増えると考えます。</p>

審査会の実施等に関する所見	実施することが適当であると認められる
---------------	--------------------

ほう賞対象	実施指示
○	○

職員提案個別票

受付番号	5
提案件名	効率的な仕事の進め方の共有化

(職員提案：提案者)

1	現状及び課題	パソコンの活用や、資料の整理など、日常の業務の中で、個人として効率的な仕事の進め方を実践している人が庁内にも存在しているはずです。
2	提案内容	<p>(1) 職員講師によるテーマ別研修の更なる活用 「効率的な仕事の進め方」を募集テーマの1項目と設定し、講師を庁内から募集・推薦などで募る。</p> <p>(2) 個人で実践している仕事の効率化策を集めた冊子の作成 エクセルの使い方やメモの取り方など、個人で実践している仕事の効率化策を集めて冊子を作成する。作成した冊子はPC上でいつでも見られるようにする。また、情報については、随時募集し、冊子の更新を図っていく。</p> <p>(3) 上記の取組について、大きな協力のあった職員に対して、人事評価に反映するとともに、善行職員に対する市長からの感謝状の贈呈に推薦をする。</p>
3	予想される効果	<p>上記の取組については、すぐに効果が出る取組では決してありません。</p> <p>しかし、仕事の効率化は日頃の積み重ねが大切であることから、継続的に研修や冊子の周知を行うことで、職員自体の仕事の進め方の効率化を図る意識が向上し、結果として職員の事務負担の軽減にもつながるものと考えます。</p>

審査会の実施等に関する所見	一部については実施することが適当であると認められる
---------------	---------------------------

ほう賞対象	実施指示
○	

職員提案個別票

受付番号	9
提案件名	庁用自動車の事故防止について_事故案件データベースの作成および常時公表

(職員提案：提案者)

1	現状及び課題	庁用自動車の事故については、インフォメーションに事故事例が随時情報提供されることで職員への注意喚起がされている。しかし、一度確認すると情報が更新されていくため顧みられる機会も少なく、意識啓発の点から効果に疑問がある。
2	提案内容	<p>管財契約検査課に集まっていると思われる事故データの情報共有を進めるため、次のとおり見える化の取組を提案したい。</p> <p>伊勢原市の庁用自動車が起こした事故のデータベース(CSVもしくはエクセル)を作成し、また、事故発生場所の地図への落とし込みを行い、これらのデータを全職員に向けて常時態勢で公表する。</p> <p>またデータには修理に生じた費用(保険代)と、運転者及び車両管理課職員が処理に費やした時間数も記載する。</p> <p>なお、ここでいう常時態勢での公表とは、職員がデータを確認したいと思ったときにネットワークを介して速やかに当該データにたどり着けることを指す。方法としては全庁共用フォルダ・文書管理システム内への備付け等、様々なものが考えられる。しかし、どのような方式をとるにしても、データベース作ってそのまま活用されないことを防ぐために、事務主管課より定期的にインフォメーション等で事故件数等の報告を行うとともに、データベースの積極的な活用を呼びかける必要がある。</p>
3	予想される効果	<p>(1) 事故多発箇所や頻出事例の情報共有による軽微な事故の抑制。</p> <p>(2) ひとたび事故を起こした場合に市政にどれだけの悪影響を与えてしまうのかを可視化することにより、運転者の責任感が強まる。</p>

審査会の実施等に関する所見	一部については実施することが適当であると認められる
---------------	---------------------------

ほう賞対象	実施指示
○	

職員提案個別票

受付番号	17
提案件名	新採用職員及び採用後職員における市民対話型研修の導入について

(職員提案：提案者)

1	現状及び課題	<p>地方分権や住民ニーズの多様化が進む中では、“市民がまちづくりの主体”という認識のもと、地域住民との協働によりまちづくりを進めていく能力が求められています。</p> <p>現在の研修制度では、開発期（新採用職員及び採用後職員）において、市民の視点で物事を考え、市民と協働する職員の育成が不足していると考えます。</p> <p>そのため、開発期（新採用職員及び採用後職員）から市民との対話と交流を通じて、日常の身近な問題を共有していくことが必要であると考えます。</p> <p><<行政・住民の現状>></p> <p>【行政】住民は行政への不満が先行して前向きな対話ができない 戦略を立てても住民からの賛同が得られない</p> <p>【住民】何のためにやっているのか分からない もう少し日々の困りごとに対応してほしい</p>
2	提案内容	<p>新採用職員研修又は採用後職員研修において、市民（まちづくり団体、青年会議所、若手農家等）と対話型のワークショップを実施する。</p>
3	予想される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・若手職員の市民と協働する能力や企画力、対話力等の向上が見込まれる。 ・対話型ワークショップを通じて、新たな施策を発掘することができる。（当該研修を継続し、施策を実現できると尚良い。）

審査会の実施等に関する所見	実施に向けて更に検討することが適当であると認められる
---------------	----------------------------

ほう賞対象	実施指示
○	

職員提案個別票

受付番号	22
提案件名	災害時相互応援協定自治体との防災以外の連携について

(職員提案：提案者)

1	現状及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ・連携を進めていく前段階として、まだお互いの特性を知らない市民も多い。 ・広く市民に周知する機会を複数回設け、「こんな市町村と連携している」という事を知らしめていく必要がある。
2	提案内容	<p>「災害応援こうりゅうかい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村からゆるキャラのぬいぐるみ（×着ぐるみ）を借りて会議をしているような写真を撮り、クルリン日記にアップする（イメージは、図書館が実施している「ぬいぐるみのお泊まり会」） ・ゆるキャラ達には、クルリンが伊勢原を案内している体裁で伊勢原の各地で集合写真を撮り、観光して貰った感じを演出 <p>※イメージ</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村のゆるキャラのHPやtwitterで「伊勢原に招待して貰ったよ」という感じで掲載してもらおう。クルリンも日記で「みんなに遊びに来て貰ったよ、これからお互いのことをもっとよく知りたいね」というような形で連携をアピールする ・各市町村でリレーのように実施し、クルリンもいろんな所へ出向く ・最終的には、全てのぬいぐるみで防災訓練を実施しているような図を撮影し、各市のHPで公開することで防災協定のなかまでであることをアピールする <p>※イメージ</p> 
3	予想される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・各市の特性をよく知ってもらい、連携意識を高揚する。各市をよく知ることで、さらなる連携のアイデアを呼べるようにする。 ・使用する予算がぬいぐるみの送付費用程度で抑えられるため、人が行き来するより安価に交流が図れる

審査会の実施等に関する所見	実施に向けて更に検討することが適当であると認められる
---------------	----------------------------

ほう賞対象	実施指示
○	

職員提案個別票

受付番号	30
提案件名	公用車事故時初動マニュアル

(職員提案：提案者)

1	現状及び課題	公用車を運転する機会がある職員は多い。パソコンへのポップアップ通知やインフォメーションにて安全運転のポイントなどを定期的に周知しているため、職員の運転に対する危機管理意識は高いと思われる。しかし、交通事故は意識だけでは必ず防ぐことが出来るとは言えず、また事故が起きてしまった、事故を起こしてしまった際にはパニックに陥り、正常な判断がつかない自体が想定される。
2	提案内容	公用車内に事故発生時の初動マニュアルを保管する。(加害者のケース、被害者のケース) 緊急時にはマニュアル通りの行動は出来ないと言われているが、無いよりは良い、パニックに陥る前の第一歩として利用されることを目的とする。
3	予想される効果	3 提案内容の通り

審査会の実施等に関する所見	実施することが適当であると認められる
---------------	--------------------

ほう賞対象	実施指示
○	○